

営農技術情報

一畑作(ばれいしょ)6月一

平成30年 6月 4日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521

～萌芽後から害虫の発生に注意しましょう！～

1 中耕・培土

- ・中耕、培土は、土壌水分が少なく地温を確保しやすい晴天日に実施しましょう。
- ・本培土が遅れると、根やストロンの切断により減収を招く恐れがあります。着蕾期（6月下旬）までに完了させましょう。
- ・培土の高さは25cm程度とし、頂部が窪まないように作業機を調整してください。

<培土時期の目安(慣行培土)>

培土時期	作業内容
萌芽揃	除草を兼ねて中耕
萌芽後 10～15 日後	中耕を兼ねて半培土
萌芽後 20 日頃	本培土:根元まで土を上げる(多少茎葉が埋没しても影響なし)。

2 病虫害防除

本年は植付け後から降水量が少なく、気温が高く推移していることから害虫の発生が早まるおそれがあります。北海道病虫害防除所の予察情報では、アブラムシ類の発生が例年に比べると「やや早く」、発生量も「多い」との予報が出されています。

萌芽後は、ほ場を注意深く観察し、発生を確認した時点で防除を実施しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容は H30.5.31 現在）

防除時期	対象害虫	薬剤名	希釈倍率	10a当り 散布水量
6月上旬 (発生時に防除)	アブラムシ類	ウララDF	2,000～4,000倍	100ℓ
6月中旬	疫病 (※1 高温少雨の 場合は省略可能)	グリーペンコゼブ水和剤	400～600倍	100ℓ
	アブラムシ類 ナストビハムシ	ゲットアウトWDG	3,000倍	
6月下旬 (着蕾～開花始)	疫病	リライアブルフロアブル	800～1,000倍	100ℓ
	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～15,000倍	

農薬安全使用 ～農薬を使うときの留意ポイント！～

①農薬使用基準を守りましょう

②飛散防止に努めましょう

- ・風の強さや風向きに気をつけましょう。
- ・適切なノズル、圧力で散布しましょう。
- ・散布の方向や対象作物との距離に注意しましょう。